

新左翼

記事紹介

- 二面 「大学自治」との闘い 井上清
- 岩井弼次同志の死を悼む(2)
- 三面 自衛隊の市民殺傷に抗議 環経専、全員高橋編入を決議
- 四画 マルクス・レーニン主義者としての岩井弼次(2)

学費値上げ反対を闘いぬく

入試阻止で決起

関西学院 学生締出し機動隊常駐

関西学院大学(兵庫県西宮市上ヶ原一帯)で、学生数約一万四千名では、六項目の要求(①通学学費値上げ反対、②不当処分撤回、③機動隊導入捜査協力自己批判せよ、④文学部学科改編反対、⑤学生会館自主管理、⑥大衆団交での要求承認)責任者は辞職せよ)をかかげて全学共闘会を組織し、理学部をのぞく、法、文、社会、経済、商、神の各学部でストライキ、学團占拠、封鎖で闘ってきた。この要求を貫徹するために七日から八日にかけて入試試験を阻止しようとする学生に対して、学院は機動隊を構内に導入し、入試を強行するとともに機動隊は学生の封鎖を放水、ガス弾を使って九日に解除した。学院は二千二百名の機動隊を構内に常駐させ、有刺鉄線を張りめぐらし、学生の立ち入りを禁止するロックアウトを強行したが、全学共闘会はいくつかの入試を阻止し、再び大学本部を封鎖して要求貫徹まで闘うよう呼びかけている。



正門前で機動隊によるロックアウトに抗議しつらひこんだ学生たち



屋上でしようとする機動隊と格闘する全共闘の学生たち

機動隊を待機させ、右翼に守られて「全学集會」をひらいた。約四千名の職員学生が参加したこの集會は、学院の一方的な発言だけで、あらかじめ学院が閉鎖したのにもかかわらず、その他の教職員、学生の発言を一切封鎖してしまっただけでなく、学院理事者たちを「弾圧」してきた右翼は暴力をふるって議事の妨害を始めた。学院側は自分のいい分だけ一方的にのべるが集會をうちきって退場しようとしたので、これに参加していた学生は大衆団交にきりかえ全共闘会を参加させようとしたが(全共闘はこの「全学集會」に参加しなかった)、右翼に守られ退場した。

四十二年以来毎年学費値上げ体育会等の右翼学生を使って強行してきた学院に対し、昨年反対闘争に立上った学生は、機動隊による弾圧と大差の処分を受け敗北した。四十四年度も値上げ強行しようとする学院に対して学生たちは、昨年から学部で教授会との団交などを要求して闘ってきた。学院は学生の交渉申入れをいろいろな理由をつけて引延ばし、二月四日午後一時から学院の中央学生

まわりに結果はじかれた。この頃から学院がやうとした右翼暴力団による全共闘学生へのリンチが激しくなった。

二月六日に暴力団は全共闘の学生一人をつかまえ交番につれこんだのに対して、全共闘が奮起したのを口実に、機動隊が学院に侵入しようとした。このとき正門にバリケードが築かれ、約一千人の学生が、六日夜から七日の朝まで徹夜で守りつづけた。

七日からはじまった試験に対して、学院は機動隊の学内立入を正式に要請した。七月には入試強行に抗議して試験場まえにすわりこんだ、手にももってない二千名の学生に対して、試験が降った四時すぎから棍棒をのりつけてなぐりかかり、多数の学生を負傷させた。その後毎日右翼暴力団が緊急態に侵入し、全共闘のメンバーをみつけてはおどかし、リンチを加え警察に引渡している。

さらに機動隊は八日から九日にかけて全共闘の封鎖している建物におどかし、放水と催涙ガスを使って全学共闘を強行しようとした。学院は機動隊を常駐させ、ロックアウトをおこなった。

入試をめぐる機動隊、右翼、学團とのほげしい闘争を継続して、学生たちは権力をおそれるどころか、実力によって要求をかちとる以外に道はないことを自覚しはじめ、全共闘のまわりに結集する学生はますますふえてきている。

全共闘は十二日以降、ロックアウトを断行し、再封鎖をかちとるための闘いを呼びかけている。関西の学費値上げに反対し、民主主義を勝ちとる全共闘の闘いは、権力の激しい弾圧にさらされ、ますます多くの学生を結集して発展させていっている。

機動隊から奪還を

11日 関学神学部自治会

関学の闘う学生諸君、
六日の機動隊導入にひきつづき九日朝、学院は学内の封鎖中の建物の実力解除を強請し、学内はいっさい立ち入り禁止となった。院長はじめ学院当局は、私学の経営の困難性を語りつつ至上命令として入試を強請するまで実現した。しかもわれわれの断固たる闘いの前も機動隊が導入されたのである。期間中常駐を入れたのである。が、一週間の何百回の機動隊を関学に常駐するこの困難をい

いわされ、九日朝からのいっさい、学院すらも、機動隊に対して強請を三振、三振させるなど、その権力実体をあまりに知らなすぎた。しかも自ら強請したこの機動隊が、勝手に実力展開するといふ光景にオロオロしているのは、権力がまさに大学の自治を握り、これをバックアップしている。これは、この学院当局が認めるべきである。われわれがこれを確信する。この一歩の具体である。われわれの学團より「ボリ公報」ではなく、明確な権力機構「機動隊を封鎖し、われらの手にわれらの学園を奪還し」友は結集せよ。

2/12、関学奪還闘争に、全学

岩井弼次先生追悼を

マルクス・レーニン主義者として、中国における「ベチニオン」に学ぶ「人民に奉仕する」活動を、本當の意欲において、日本で忠実に実践され、つらぬきとおされた、革命的医師岩井弼次先生が、去る一月十一日遂に七十五年の生涯をとりられました。

岩井先生がなくなられたときは、日本の歴史上かつてなかった反戦青年委員会や学生の革命的闘争が盛り上がり、東大をはじめ、全国各地、各所ではげしく、英雄的に闘われているなかで、岩井先生は、これら青年の活動のなかに未来への展望をみだし、その闘いを支持し、激励し、その発展に心を託し、新しい日本のあけぼのの近きを信じつつ、その生涯をとりられたのでした。

弾圧のきびしかった戦前から天皇制テロルと闘い、度重なる検挙・投獄にも屈せず、人民のための医療活動、弾圧犠牲者の労働救済活動に全力をつくし、つづけてこられました。戦後もいち早く、それらの再建に取り組み推進することに生涯をかけたのです。

いまや代々木修正主義者団は、反革命の行動隊として、反動権力の手先になりさがり、労働者や学生の闘いを狂気のように裏切り、破壊しようとならんではいます。

岩井先生は、この宮本修正主義者団の退廃と反革命性に反対し、これを打ちこわし、マルクス・レーニン主義で正しく武装された新しい革命党の創設なしには、日本革命の勝利はないと、党内外で青年を集め、共に語り、学び、活動を進めておられました。

また、医療・救済活動の交流を通じて関係の深かった、中華人民共和国との友好を発展させるため、死の寸前まで、日中友好(正統)の会員として、闘いぬかれたのでした。

代々木修正主義者団は、マルクス・レーニン主義者としての大道を進まれる岩井先生の活動を恐れ、さまざまの迫害をくわえ、その死を早めるのに狂奔したばかりか、先生のすぐれた業績と、大衆のよせる信頼と敬愛を、彼らの功績として横取りし、先生を日本革命運動の歴史から抹殺しようとした。

岩井先生が「真の革命家」として大衆的に追悼されることを恐れた代々木修正主義者団は、その死の発表も制約し、葬儀を家族の責任に押しつけ、干渉をつづけたのです。

その生涯を日本人民の解放のためにさげられた岩井先生に対する、代々木修正主義者団の残虐と逆逆の行為を私たちは断じて許すことはできません。

私たちはここに、先生の遺志と遺業を正しく受けつぎ、それをさらに前進させるため、先生と志を同じくする人びとの手で一大集會を開催し「真の人民の友」「真の共産主義者」の死にふさわしい追悼をおこなうことを発起しました。

私たちは、これこそ先生の望んでおられたことであり、喜ばれることだと信じます。

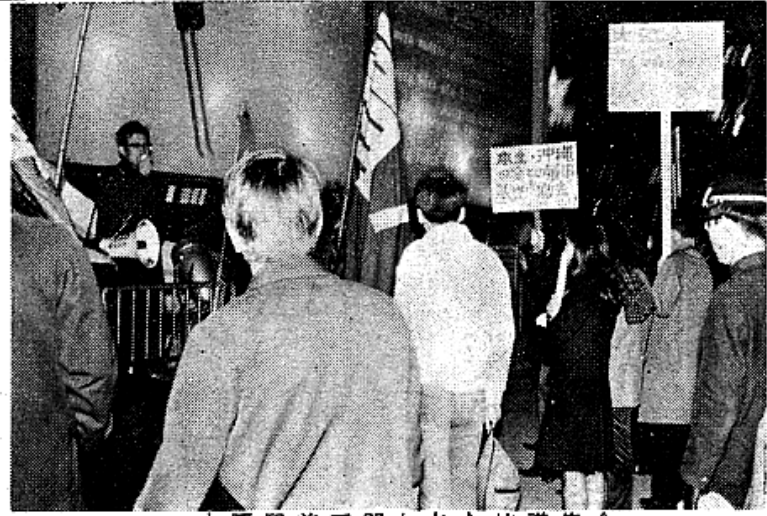
私たちは、岩井先生と共に活動された人びとはもとより、友人・知己の方々、また先生の死を悼む多くの人びと、そして、先生と志を同じくして闘っておられる活動家のみならず、一人でも多く、この岩井弼次先生追悼実行委員会に参加くださいますよう訴えるものです。

一九六九年二月

岩井弼次先生追悼実行委員会
追悼集會は、三月十六日(日)午後、大阪市内で行なう予定
一、記念出版を計画しております。追悼文、先生の思い出、年記、先生の書かれたものなどについてください。(氏名の公表できない方は、ペンネームで結構です)
一、連絡先 大阪市北区伊勢町三四 日清ビル四階
A.A.人民連帯内 TEL(06)36330841-2

大阪駅頭で緊急集会 自衛隊機の市民殺傷に抗議

八日国鉄大阪駅東口の広告前には夜六時から八時半まで二百名以上の労働者、学生、市民が、この日の朝金沢市内に自衛隊機が墜落し、多数の市民を殺傷し、家屋を損壊させたことに抗議した。この集会を呼びかけたのは、アイゴの会(大阪府連帯の会)と大



大阪駅前で行われた抗議集会

沖繩 雨ついでデモ

二月四日大阪北区の藤町公園で雨をうけて、沖繩のB52撤去統一行動に連帯して集会がひらかれ、五百二十人が参加した。大阪府評は集会を早々に中止し、デモを中止した。しかし、全大阪反戦、全学連、へ平連の約十人は、梅ヶ枝町から中之島公園までデモ行進し

総評に公開質問

アイゴの会
四日の集会で大阪府評が他の団体にはからず、単独で集会を盛りあげ、デモを中止したことについて、多くの団体から不満の声があがっている。アイゴの会は、大阪府評に対して、デモを中止した

沖繩闘争を討論

平和のための婦人行動委
昨四月の国連反戦統一行動を事案として、ベトナム反戦をめぐり、安部保、沖繩反戦、軍人婦人行動組織として結成されて日本社会党の革命的再建を

社会党を革命的再建

奈良中央支部が結成宣言
日本社会党奈良中央支部は、二つのべく結果、激しい討論の月一日結成大会を開き、大会宣言を通過し、一致して結成した。全支部の

東大闘争報告会

二月十六日(日) 午後一—四時
奈良労働会館 奈良市役所 養源池では
主催 日中友好協会(正統) 奈良県本部

吹田操車場へデモ

16日 反戦六団体共同で

全線津、北摂、東淀川、吹田、な政治的役割をもっている。国鉄高槻、北大阪の六つの反戦青年委員、輸送の反動的、反階級的な性格を、十六日に吹田操車場へデモを、これに対する闘いを、この場を機軸とするための集会を、午後一時から吹田市高槻神社(国鉄吹田駅から南へ十分)でおこな

小宮一派の祈り

入学の地にまします我らだけの父よ
ねがわくば機動隊をあがめさせ給え
入試を実現させ給え
み心の反動国家になるごとく
入学にもなさせ給え
我らの日ごとの利益を
今日も与え給え
我らに善を要求する全共闘を我らが弾圧し
我らが弾圧し我らの罪だけ許し給え
我らをおおきく救済し給え
我らをおおきく救済し給え
我らをおおきく救済し給え
我らをおおきく救済し給え

公開職員会議勝取る

全員編入決議で府と対決

専 塚 経
生徒は校長室におしよせ、回答を求めたが校長は拒否した。校長は校長室におしよせ、回答を求めたが校長は拒否した。校長は校長室におしよせ、回答を求めたが校長は拒否した。校長は校長室におしよせ、回答を求めたが校長は拒否した。

この学生闘争を一生懸命に支持、まよふことなくおこなった。生徒は、校長室におしよせ、回答を求めたが校長は拒否した。校長は校長室におしよせ、回答を求めたが校長は拒否した。校長は校長室におしよせ、回答を求めたが校長は拒否した。

各組織から抗議と闘争の決意の表明があったが、通りがかりの労働者、学生、市民が、アイゴの会を呼びかけた。このなかで、アイゴの会を代表して津井氏は次のように発言した。「金沢で起きた事件は偶然の出来事ではない。自衛隊が侵略のための軍隊であ

た。この集会で高校反戦の代表は、事務所を日共代々木派と民青が連帯して、この集会を盛り上げた。この集会で、高校反戦の代表は、事務所を日共代々木派と民青が連帯して、この集会を盛り上げた。

た。この集会で、高校反戦の代表は、事務所を日共代々木派と民青が連帯して、この集会を盛り上げた。この集会で、高校反戦の代表は、事務所を日共代々木派と民青が連帯して、この集会を盛り上げた。

た。この集会で、高校反戦の代表は、事務所を日共代々木派と民青が連帯して、この集会を盛り上げた。この集会で、高校反戦の代表は、事務所を日共代々木派と民青が連帯して、この集会を盛り上げた。

